

(令和2年度単年度経営計画)

(公財)京都市音楽芸術文化振興財団	令和2年度経営計画 兼 経営努力結果
-------------------	-----------------------

基本事項

所管局課	文化市民局文化芸術都市推進室 文化芸術企画課	本市出えん金	55,000 千円
基本財産/資本金	103,000 千円	本市出えん率	53.4 %

「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」

方向性	存続	目標年度	-
-----	----	------	---

「今後の方向性」に向けた基本的方針

業務面	<p>「多様な文化芸術と結びついた京都の豊かな暮らしの深い実感を提供すること」「様々な文化交流を通じて国内外における京都の存在価値感を高めること」を当財団の目指すべき経営展望として掲げ、以下を重点方針とする。</p> <p>①「文化芸術都市・京都」の創生を推進する質の高い音楽芸術・舞台芸術を創造・提供 ②地域の文化力のさらなる向上と社会包摂の取組を推進 ③文化芸術ネットワークの拡充と連携・協働を推進</p>
財務面	<p>管理運営施設の経営を総合的かつ安定的に展開するため以下のことに取り組む。</p> <p>①中期的な収支の見直しに基づく財務戦略の展開 ②財団全体・各事業部門の財務管理の強化 ③戦略的・計画的な投資等の推進 ④ファンドレイジングの推進</p>
組織面	<p>管理運営施設の経営を総合的かつ安定的に展開するとともに経営基盤を強化するために以下のことに取り組む</p> <p>①自立的な組織運営 ②働き方改革等への対応 ③組織人員体制・配置等の最適化 ④危機管理体制の確立・運用</p>
その他	

当年度の取組目標に対する意見

所管局	<p>本年は京響ビジョンに基づく取り組みの初年度であるとともに、ロームシアター京都（京都会馆）がリニューアルオープンから5周年、京都コンサートホールが会馆から25周年を迎える節目の年である。事業実施のために資産の取崩しを行うなど、多額の資金を投入するため、事業を確実に成功させるのはもちろんのこと、さらなる外部資金獲得にも努めていただきたい。</p> <p>また、ロームシアター京都、京都コンサートホール及び地域文化会馆5館が、京都の文化を発信する一翼を担う施設であることを再認識し、魅力ある自主事業展開と本市内の関連施設との連携も進めていただきたい。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、必要な対策を行いつつ、効率的かつ安定的な組織運営を図っていく必要がある。</p>
-----	--

当年度の「今後の方向性」の進捗状況及び各取組に対する総括(※)

団体	<p>業務面においては、京都コンサートホールの25周年、ロームシアター京都のリニューアルオープンから5周年を迎える年で、様々な事業等を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、中止せざるを得ないものも多かった。中でも、無観客でのライブ配信や、感染対策を徹底した上で規模を縮小しての実施等、コロナ禍における取組について、様々な工夫をしながら行った。</p> <p>財務面については、新型コロナウイルス感染症の影響による施設の閉館等もあったため、施設利用料収入の安定化がはかれない結果となった。</p>
所管局	<p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による施設閉館や営業時間の短縮により、多くの事業が延期や中止を余儀なくされた。それにより施設利用料金収入の安定化が図れず、目標としていた利用料金収入に到達することができなかった。しかしながら、コロナ禍における取組を積極的に実施され、文化芸術の発信・鑑賞の機会確保に努めていただいた。</p> <p>引き続き、本市と連携をとりながら、安定的な運営に向け尽力いただきたい。</p>

(令和2年度単年度経営計画)

(公財)京都市音楽芸術文化振興財団	令和2年度経営計画 兼 経営努力結果
-------------------	-----------------------

(1)業務に関する取組

目標「各施設の利用促進」	
中期経営計画 における取組	京都が世界的な「文化芸術都市」として創生することを推進するため、質の高い音楽芸術・舞台芸術を創造・提供するとともに、京都の文化力のさらなる向上と社会包摂を促進する取組を推進し、管理運営施設の利用促進を図る。
当年度目標	京都コンサートホール及び地域文化会館（5館）については、長期間利用の無い団体や、他施設を利用している団体については、DMの送付及び各種助成金制度の広報・宣伝をしており、平日の利用促進を図るほか、施設の空き情報をホームページで発信するなど、利用率の向上に努める。 ロームシアター京都については、キャンセルが発生した場合、抽選で落選した団体に声をかけるなど、高い利用率を維持する。
当年度結果 (※)	京都コンサートホール、ロームシアター京都及び地域文化会館（5館）について、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う施設の閉館等により、開館時に利用促進の取組を行ったが、令和2年度の目標値の41%に留まり、目標設定していた利用料金収入額を達成することができなかった。

指標	施設利用料金収入 (単位：千円)							
	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
中期経営計画	695,815		758,400		758,400		758,400	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	750,637	765,262	758,400	751,470	775,212	750,192	792,509	328,878

(2)財務に関する取組

主要財務数値 (単位：千円)							
	平成30年度		令和元年度		令和2年度		備考欄
	予算	実績	予算	実績	予算	実績(※)	
経常収益	2,936,196	2,858,600	2,959,495	2,910,656	3,027,858	2,569,903	
経常費用	2,949,953	2,857,390	3,005,997	2,972,871	3,110,590	2,584,284	
当期経常増減額	△ 13,757	1,210	△ 46,502	△ 62,215	△ 82,732	△ 14,381	
当期正味財産増減額	△ 13,757	890	△ 46,502	△ 62,215	△ 33,132	36,109	
資産合計	-	1,516,027	-	-	-	1,426,672	
負債合計	-	786,121	-	-	-	739,791	
正味財産	-	729,906	-	-	-	686,881	
うち累積損益額	-	626,906	-	-	-	583,881	

(公財)京都市音楽芸術文化振興財団	令和2年度経営計画 兼 経営努力結果
-------------------	-----------------------

目標「サポーター・パートナー会員収入」	
中期経営計画における取組	中期的な収支の見通しに基づき、財務戦略の展開を図るとともに、戦略的・計画的な投資等の推進を行う。また、会員制度の充実を図り、会費収入の維持・拡大に努める。
当年度目標	前年度に引き続き、制度趣旨について、多数の市民に、また社会貢献活動に関心のある企業の方々に、ご理解・ご賛同をいただく。 また、令和元年度から担当職員を増員しており、現在の会員加入者の皆様には細やかに対応し、継続していただきつつ、新規加入者を獲得し目標設定の6,600千円を目指す。 法人：サポーター 34口 3,400千円 〃：スペシャルサポーター 5口 500千円 個人：パートナー 54口 1,080千円 〃：スペシャルパートナー 81口 1,620千円 計6,600千円
当年度結果(※)	目標値の達成は叶わなかったが、コロナ禍において、経営が悪化している企業も多い中、新規会員の獲得はもとより、既存の会員の維持に努めた。

指標	サポーター・パートナー会員収入（単年度）の目標値 (単位：千円)							
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	5,000		6,000		6,000		6,000	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	6,000	5,900	6,000	6,423	6,300	6,300	6,600	6,320

(3)組織に関する取組

目標「経営基盤を強化するための適正かつ弾力的な人員配置」	
中期経営計画における取組	財団の自立、存在意義を高め、経営基盤を強化するために必要な組織運営面の取組を推進する。また、働き方改革等への対応を行いながら、適正かつ弾力的な人員の構成を図る。
当年度目標	指定管理施設(7施設)の指定管理期間の2年目を迎えるとともに、令和元年度に策定した京都市交響楽団ビジョンに掲げた5つの戦略の具体的な取組を推進するために、効果的・効率的・安定的な事業執行を実現する体制を確立する。 また、引き続き、プロパー登用試験を実施し、中長期的に財団を支える職員の人材育成にも努める。
当年度結果(※)	指定管理施設(7館)の指定管理期間の2年度を迎え、さらに効果的・効率的・安定的な事業執行を実現する体制の確立を行った。 また、プロパー職員の登用試験を実施し、中長期的に財団を支える職員の人材育成にも努めた。

指標	適正かつ弾力的な人員構成を測るための具体的なスケジュール							
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	—		<ul style="list-style-type: none"> 必要な人員体制の確立 中長期的に財団を支える職員のプロパー登用 		<ul style="list-style-type: none"> 適正かつ弾力的な人員構成の検討 中長期的に財団を支える職員のプロパー登用 		<ul style="list-style-type: none"> 適正かつ弾力的な人員構成の確立 中長期的に財団を支える職員のプロパー登用 	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 必要な人員体制の確立 中長期的に財団を支える職員のプロパー登用 	<ul style="list-style-type: none"> 次期指定管理の獲得を見据えた、人員体制の確立 プロパー登用試験の実施(平成30年度プロパー登用者 7名) 	<ul style="list-style-type: none"> 適正かつ弾力的な人員構成の検討 中長期的に財団を支える職員のプロパー登用 	<ul style="list-style-type: none"> 京都市交響楽団ビジョンに掲げた取組の推進を見据えた、人員体制の確立 プロパー登用試験の実施(受験者：3名(予定)) 	<ul style="list-style-type: none"> 適正かつ弾力的な人員構成の継続的な検討 中長期的に財団を支える職員のプロパー登用 	<ul style="list-style-type: none"> 適正かつ弾力的な人員体制の確立 プロパー登用試験の実施(令和2年度プロパー登用者 1名)

(公財)京都市音楽芸術文化振興財団	令和2年度経営計画 兼 経営努力結果
-------------------	-----------------------

(4)その他の取組

目標「京都市からの派遣職員の削減の検討」	
中期経営計画 における取組	京都市からの派遣職員については、財団と市が事業等で密接に関連しており、一定の公共性を確保したうえで、円滑に施策を推進するために必要最低限の人員の派遣を受けているところである。 現在、ロームシアター京都（京都会館）に関する運営等の安定化を図るうえで、当面の人員削減は困難だが、中期経営計画を推進するとともに、より自立的な経営体制の構築を図り、財団の運営状況や事業の進捗を見極めながら、将来的な組織の在り方や人員体制、人材育成等について検討する。
当年度目標	地方公務員法等の改正に係る京都市交響楽団員の財団職員化を受け、京都市交響楽団ビジョンに掲げる取組の進捗状況等を踏まえ、より効率的な組織の在り方や必要な人員体制、財団独自の人材育成について更なる検討を進める。
当年度結果 (※)	当年度においては、本市からの派遣職員の削減は行わなかった。地方公務員法等の改正に係る京都市交響楽団員の財団職員化、財団全体の中長期的な運営を見据えながら、より効率的な組織の在り方や必要な人員体制、財団独自の人材育成について更なる検討をしていく。

指標	派遣職員数削減に向けた検討スケジュール							
中期経営計画	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	—		財団職員配置と連携した派遣職員数の検討		財団職員配置と連携した派遣職員数の検討		派遣職員を含む職員の適正かつ弾力的な人員構成の確立	
実績	見込	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
	—	—	財団職員配置と連携した派遣職員数の検討	財団職員配置と連携した派遣職員数の検討し、1名の削減を行った。	財団職員配置と連携した派遣職員数の検討	派遣職員数 6名	財団職員配置と連携した派遣職員数の検討	京都市からの派遣職員数の削減は行わなかった。